

令和4年度 足利中央特別支援学校 学校評価シート

教育目標、目指す児童生徒像、教師像、学校像

教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育と必要な支援を行い、その能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかに心豊かな人を育む。
目指す児童生徒像	〔あかるく〕前向きな気持ちを表情や声、言葉で表現できる児童生徒 〔つよく〕健康を保持増進し体力を高め、運動やスポーツにチャレンジする児童生徒 〔たすけあう〕人と隔たりなく心豊かに関わり、互いに支え合うことのできる児童生徒
目指す教師像	1 深い児童生徒理解に基づく丁寧な指導ができる教師 2 研修・研鑽に励み資質・能力の向上を目指し続ける教師 3 豊かな人間性をもち信頼される教師
目指す学校像	1 安心・安全な学校 2 児童生徒が意欲的に学べる学校 3 地域社会に開かれた学校 4 教職員がやりがいを感じられる学校

令和4年度努力点と重点目標

評価基準 A：達成できた（80%以上） B：概ね達成できた（50～80%） C：あまり達成できていない（20～50%） D：達成できていない（20%以下）

本年度の努力点	推進担当	重点目標（評価項目）	評価の観点	評価	改善策	学校評議員評価
〔学習環境の整備〕						
1 危険等発生時の体制整備と安全管理を徹底するとともに、保健教育・安全教育的充実を図る。	健康指導部 児童生徒指導部	・危機管理体制整備の一環として危機管理マニュアルの確認・検証を行う。	・職員研修や実際の訓練等でマニュアルを検証し、確認、再検討をすることができたか。	A	・これまで危機管理マニュアルを確認する機会が少なかったが、職員研修で取り上げることで、各活動グループごとに確認、検証、再検討を行うことができた。危機管理意識の維持を図るため、研修で上がった課題等の改善を進めつつ、実践的研修を継続していく。	・危機管理については、マニュアルを共有し、危機発生時の対応を教員同士で共有するなど、力を入れていることが分かった。 ・ICTへの取り組みでは、効果のあった指導は次年度に生かしてほしい。また、特別支援学校ならではの取り組みや活用方法について、地域の特別支援学級へ指導・助言してほしい。
2 ICT活用を含む教材教具の工夫をはじめ、合理的配慮による個別最適な学びの環境を構築していく。	教務部	・ICTを活用した学習教材及び指導事例等を職員間で共有可能な仕組みを整える。	・校務システムの活用等により、デジタル教材の使用方法や指導事例等の共有化を進めることができたか。	B	・ICT機器を活用した授業で使用したデジタル教材や指導事例等のデータを保存する場所は設定したものの、発信が十分でなかった面があった。今後、デジタル教材や指導事例の収集を継続して行い、活用に係る情報を積極的に発信していく。また、指導に必要なときに即時参考とできるよう、データの保存方法等を見直す。	
〔教育の充実〕						
1 新学習指導要領に対応した教育課程、指導計画を検討し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	学習指導部	・児童生徒一人一人が主体的・対話的に学ぶことのできる授業づくりを行う。	・児童生徒の実態を適切に把握し、興味関心に合わせた学習活動が展開できたか。	B	・自立活動シート等を活用し興味関心や強みを生かした学習活動の工夫は概ね達成されていると思われるが、「主体的・対話的学び」となったかどうか評価しにくい面があった。今後は、障害の実態や特性等を考慮した「主体的・対話的学び」に関する研修を継続的に行うことに加え、「主体的・対話的学び」に関するチェックシートを作成し、評価の観点を明確にする。	・学習面では、児童生徒の障害の状況に応じて教材教具を工夫して取り組んでいることを見ることができた。 ・障害者の法定雇用率が今後引き上げられるため、特別支援学校の実習や一般就労を、企業側から求めてくれることが期待できる。今後も進路指導に力を入れていってほしい。
2 児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実を図る。	進路指導部	・キャリアパスポートを活用して、児童生徒の卒業後の生活を見据えた指導を行う。	・キャリアパスポートを活用し、児童生徒の進路を意識して指導をすることができたか。	B	・キャリアパスポート導入2年目ということもあり、活用が定着していないこともあるが、キャリアパスポートの目的や意義が浸透していなかった。また、単年では有用性を実感するまでに至らなかったと考えられる。キャリア教育推進委員会と連携して、キャリアパスポートの有効な活用について、研究を行うとともに、キャリアパスポートの目的や活用方法について周知する。	
3 健康の保持増進に必要な資質・能力の向上を目指すとともに、運動を楽しむことのできる素地を培う。	健康指導部	・健康の保持増進に必要な運動、スポーツに興味関心を持ち、楽しみ、親しめるような学習活動を行う。	・運動やスポーツ、体育行事（国体等）に関連した内容を、授業や行事等に取り入れ、学習活動を行うことができたか。	A	・各学部などにおいて国体に関連しての取り組みを行い、学習への意欲に結びついている様子や、普段からトレーニング等で体を動かすことに力を入れている様子が見られた。今後も、国体をきっかけに高まった運動、スポーツへの興味関心を維持できるよう学習活動に取り入れ、健康の保持増進へつなげる。	
〔家庭や地域との連携〕						
1 家庭や地域との連携・交流・協働によって開かれた教育課程を実現し、特色ある学校づくりを推進する。	渉外部	・地域連携授業を実施し、地域の方との連携を図る。	・地域の人的物的資源を幅広く生かした授業を展開することができたか。	A	・年度初めに予定した地域連携授業についてはおおよそ実施できたので、今後も改善を加えつつ継続していく。また、児童生徒の実態や目的に合った授業の実施の参考とするため、地域連携授業の予定一覧を作成し、年度初めに職員に周知を図る。	・地域の教育資源を活用し、児童生徒にとって、たくさんの経験と活動の広がりがあった。継続してほしい。 ・実施したい活動が分かれば、地域の活動と結びつけることもできる。窓口の周知ができるといい。
2 児童生徒の学びと豊かな生活を保障するため、地域資源の活用と行政、医療、福祉等関係諸機関との連携を深める。	地域支援部 児童生徒指導部	・地域の行政、医療、福祉等関係諸機関との連携を深める。	・児童生徒の指導にあたって、問題解決のために、地域の行政、医療、福祉等関係諸機関を活用することができたか。	B	・概ね目標を達成することができた。問題を抱えている児童生徒について、引き続きケース会議等を通して関係機関と連携を深め、問題の改善を図る。	
〔教職員の働き方〕						
1 様々なスキルの向上を目指して自ら学び続けることのできる環境づくりを進める。	教務部	・総合教育センターによる研修の情報提供、ニーズに応じた校内研修の実施等により、学ぶ機会を確保する。	・校内研修において、意見交換や指導実践と組み合わせ実施など、研修内容・方法の工夫により、教職員が自ら学ぶ機会を提供できたか。	B	・校内研修では、実践的な研修内容となるよう工夫したことと、職員のニーズに応じた内容を取り上げたことが、「学ぶ機会を得られた」という実感につながった。次年度以降の研修のテーマや内容、方法等の検討に当たっては、研修実施後の教職員からの反省や感想を確認するなど、教職員のニーズを丁寧に把握する。	・働き方改革、業務改善は必要であるが、行事等の見直しには、児童生徒が主体になっているかを含め、保護者の心情や思いにも考慮しながら検討してほしい。
2 心身の健康の保持増進と、ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進する。	教頭	・勤務時間の適正化、意識改革、業務改善に取り組み、働き方改革を促進する。	・業務改善に取り組み、本来の業務を行う環境が整備できたか。	B	・業務改善としては、個人レベルでできることはある程度進められているので、今後は行事の精選、校務分掌の平準化等、組織レベルでの取り組みについて検討していく。	・働き方改革についての教職員の意識は向上しているようにもとれるが、目的を確認し、充実感を感じられるようにすることが必要である。
3 情報共有と役割分担を意識し、組織力の向上を目指した協働体制の確立を図る。	教頭	・組織での対応という視点をもち、情報共有や役割分担を推進する。	・協働の実感を持ち、良さを感じることであり、協働体制を確立できたか。	B	・教員一人一人は協働の良さを感じ、促進していこうという気運はある。一方、協働体制の確立という部分においては、必要な情報は素早く共有し、対応について関係職員が話し合い、共通理解を図って当たるという具体的な動きを強化していく。	